29　FDG-PET と MIBI-SPECT による乳癌描出能の比較

油谷健司、植原敏勇、西村恒彦（大阪大・トレーサ）

乳癌が疑われた女性患者 14 名について FDG-PET と MIBI-SPECT を施行し、両検査における描出能を比較検討した。FDG-PET では iv 後 30-50 分像の腫瘍部と対側乳房のカウント比(tumor/normal; T/N 比)を、MIBI-SPECT では iv 後 5-25 分像の T/N 比を求めた。直径が 11.7mm を超える乳癌(8 例)については両検査において全例描出された。FDG の T/N 比高値例の内 MIBI の T/N 比低値例は 2 例見られた(FDG:MIBI = 5.68:1.38, 3.02:1.28)。この内一例は mucinous carcinoma であった。 fibroadenoma(1 例)は FDG では描出されず MIBI では描出された。FDG-PET は MIBI-SPECT に比較して specificity において優れている可能性がある。

30　多発性骨髄腫における^{201}Tl・^{99m}Tc-MIBIシンチグラフィの有用性の検討：骨シンチグラフィとの比較

清水正司、渡辺直人、藤山昌成、呉　翼偉、富澤岳人、豊嶋心一郎、神前裕一、瀬戸　光　(富山医薬大　放)

多発性骨髄腫の骨、骨髄病変の診断および治療効果判定における^{201}Tlおよび^{99m}Tc-MIBIシンチグラフィの有用性を検討した。　多発性骨髄腫の患者18例 (計27回) に^{201}Tlシンチグラフィを施行し、また5例 (計7回) の患者では^{99m}Tc-MIBIシンチグラフィも施行し、骨シンチグラフィ18例 (計29回) の所見と比較した。　^{201}Tl・^{99m}Tc-MIBIシンチグラフィで集積増加を示したため、骨シンチグラフィで指摘困難な病変を明瞭に指摘できた症例が5例あり、7例 (^{201}Tl)と2例 (^{99m}Tc-MIBI) では治療効果判定も可能であった。

^{201}Tlおよび^{99m}Tc-MIBIシンチグラフィは多発性骨髄腫における腫瘤性病変の検出と治療効果判定に有用であり、骨シンチグラフィとの併用が有用であると考えられた。

31　Ehlich腹水癌細胞における^{99m}Tc-MIBIの細胞内流入機構の検討

安藤由智，竹田芳弘，新屋晴孝，佐藤修平，小林　満，中川富夫，赤木史郎，平木祥夫（岡山大放）

Ehlich腹水癌細胞（WildEATC）およびadriamycin（ADR）耐性細胞を使用し，ADRと^{99m}Tc-MIBI（MIBI）の細胞内への流入について検討した．修飾剤としてcepharanthine（CEP），イオンチャンネル阻害剤として，amiloride，DIDS，nigericineを用いた．WildEATCでは，CEPによりADR，MIBIの取り込みは増加した．amiloride，DIDSによりADRの取り込みは抑制され，MIBIの取り込みは増加した．nigericineにより，WildEATCでMIBIの取り込みは増加したが，ADR耐性細胞では低下した．以上よりMIBIとADRの流入機構は異なっていると考えられた．また，ADR耐性細胞ではMIBIの流入機構は変化していると思われた．

Presented by Medical*Online